

北都20第 4053号
平成20年11月17日

国土交通省道路局長 殿

北谷町長 野国 昌春



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成20年9月19日付国道企第37号にて依頼がありましたみだしの件について別紙のとおり回答致します。

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

沖縄県北谷町

①返還跡地の円滑な土地利用を図るための社会資本整備

返還軍用地については、これまで米軍施設の撤去など現状回復工事等を経て地域や地権者に土地の引渡しが行われてきましたが、土地の引渡し時点では道路や公園、水路などの公共施設は未整備となっており返還跡地の土地利用については、新たに市街地開発事業を導入していくことが不可欠となっています。

本町では、これまで返還跡地の開発手法として土地区画整理事業を活用し社会資本の整備を行ってきましたが同制度は、土地の減歩として地権者に大きな負担を求めるものであり、戦後60余年を経てようやく手元に返ってきた土地の面積減少は地権者の返還跡地開発意欲に看過できない影響を与えています。

土地区画整理事業は、国庫補助事業として地区内幹線に位置づけられた都市計画道路の用地買収事業費相当額の経費が事業費として手当てされますが、その他の区画道路などの公共施設整備地権者或いは地元自治体の負担となっています。沖縄県においては、「沖縄振興特別措置法」により、土地区画整理事業の実施において他都道府県よりも高い補助率となっていますが公共施設が皆無な状況の返還跡地の開発においては、社会資本の整備に通常より多大な整備費が見込まれます。返還跡地の公共施設整備（特に道路整備）については、国の支援或いは責務において地権者や自治体の負担を軽くしていただきたい。

※提案・要望

1. 道路特定財源の手当により、実施される土地区画整理事業については、幹線道路のみならず区画道路についても用地買収事業費として算定し補助基本額に組み入れていただきたい。
2. 平成10年1月22日建設省都区発第1号建設省都市局区画整理課長通達の「土地区画整理事業の実施細目の改定について」の別紙第1において電線類地中化事業への対応や「補助対象の範囲」についても拡充を要望したい。

②－１ 地域の現状と抱える課題

沖縄県北谷町

○現状

桑江伊平土地区画整理事業地区は、北谷町の中心地としてマスタープランにも位置づけられており、美浜やアメリカンビレッジと近接した地理的条件も備わっている。また、ＳＡＣＯ合意による米軍施設返還跡地利用のモデルケースとして関係機関からの注目度も高い地区となっている。さらにこの事業地区内にある国指定の要件を具備した伊礼原遺跡の保全・活用は、本町都市マスタープランにおいて重点プロジェクトとして位置づけられており、景観に配慮した整備を目指したい。

○課題

桑江伊平土地区画整理事業地区、伊礼原遺跡については、電線地中化を行うことにより景観を配慮した景観モデルゾーンとして位置づけていく。しかし電線地中化を国に要望しておりますが、電線地中化候補路線の優先順位はかなり低く、実現はほど遠い。また町で電線地中化を行うには自主財源が厳しいため国に対して積極的な配慮を要望する。

②-2 地域の目指すべき将来像

沖縄県北谷町

① 地域の自立的発展を支援する道路ネットワークの整備を図る。

道路ネットワークの形成は、地域間交通の確保と広域幹線道路の整備によるアクセスの強化を図ることにより、利用者の利便性及び安全性の向上を促進する。

② 交通渋滞を解消し、観光支援、地域の自立的発展を支援する沖縄西海岸道路及び県道 24 号線バイパス等の基幹道路の整備を図る。

現国道 58 号は、本島南北方向を結び沖縄本島の骨格を成す広域幹線道路ですが、慢性的な交通渋滞が深刻化しております。

そこで、現国道 58 号を北谷町が施行する桑江伊平土地区画整理地区側に拡幅し渋滞の緩和と本県の南北方向の広域交通ネットワークを確保し物と人の流れを円滑にする必要がある。

現県道 24 号線は、本町の中心部を東西に横断し、沖縄市へ結ぶ本町の主要道路となっております。しかし、地形が険しく戦後の混乱期に自然発生的にできた道路を改良されたことからカーブが激しく歩車道の区分が明確でないこと及び近年の交通量の増大から通行する利用者の安全確保が課題となっております。以上のことから早急な整備を図る必要がある。

③ 基地跡地利用計画の円滑な推進を図るための道路整備を図る。

基地によって分断されている道路ネットワークを構築し、広域及び地域間交通ネットワークの形成を図る。

④ バリアフリーに対応する道路整備を図る。

既存道路のバリアフリー化への改良費用や新設道路のバリアフリー整備に伴う補助採択の拡充。

⑤ 幹線道路上へのペDESTリアンデッキの設置(土地の有効活用、歩行者の横断に配慮)を図る。

限られた空間の中で歩行者と自動車をうまく分離させ、安全・快適な場所を提供できるようにペDESTリアンデッキの設置を行う。例えば将来、現国道 58 号を拡幅し幅員を 50m にする道路計画があります。歩行者が幹線道路を横断する場合において横断に時間がかかり危険であるためのペDESTリアンデッキ設置を図る必要がある。

③ 道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

沖縄県北谷町

○重点事項 国道 58 号で区切られる本町西海岸地区との連続性を確保するため数ヶ所のペDESTリアンデッキを設置してもらいたい。	○代表事例 本土の駅前がよく見られるような駅ビルと周辺建物を結ぶ連結通路、広場の機能を合わせもった構造物。	○期待する効果や評価 本町西海岸と近い将来において全面返還開発されるキャンプ桑江地区との連結を図ることにより、国道 58 号横断のリスクを回避するとともに地域経済の活性化を図る。	○その他
--	---	---	-------------